４日目（クルーズ最終日）

いかん、やられた！昨日までなんともなかった胃腸の様子がおかしい。ちなみに同行者(家内です)には異常なし。原因と思われるのは…、

①船内の冷房による「寝冷え」。夜中に寒くて目が覚めた。

②調子に乗っての「食べ過ぎ」。(クルーズ)初日に関しては自覚できなくもないが、２日目以降は自重した(つもり)。

③食材が合わない、もしくは傷んだものを食べたか。しかし、同行者もほぼ同じようなものを食べてるし…。

④現地の水は、「硬水」である。船内レストランでの飲料水がもし「硬水」だったら…。

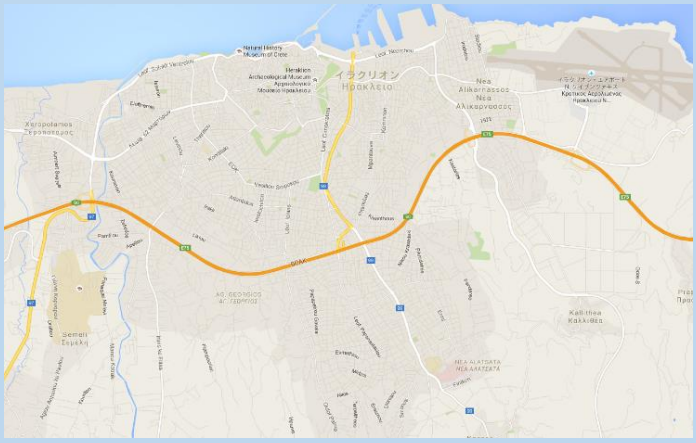
以後　ラマダンに入る…。

4日目　8月2日(日)

都市名	時刻	交通機関	スケジュール
クレタ島	07:00	船	《クレタ島へ入港》 着後、《自由行動》をお楽しみください。
	11:30		クレタ島を出港し《サントリーニ島へ》
	12:00～ ～14:00		昼食は、船内にてお楽しみください。
サントリーニ島	16:30	船	《サントリーニ島へ入港》 着後、《自由行動》をお楽しみください。
	19:00～ ～21:30		夕食は、船内にてお楽しみください。
	21:00	船	サントリーニ島を出港し《アテネへ》
			<船中泊>

クレタ島について(旅行社のパンフレットより)

エーゲ海で最も、大きい島。 また、ヨーロッパ最古のミノア文明が 花開いたところでもあり 今でも農村部では伝統的な服装で暮らす人々を見かける。観光の起点はイラクリオ、市場通りには小さな店が並び、お土産探しに好都合だ.ミノア文明の遺産が収められている考古学博物館もある。



イラクリオ郊外にあるクノッソス宮殿の遺跡も迷宮そのもので見逃せない。ベネチア時代の影響が色濃く残っているのはハニアとレシムノ。ハニアは島の行政的中心地で、港の開囲には美しい市街がある。 レシムノはトルコの支配下に置かれていたこともあるので、 独特の魅力がある町だ。クレタ島は地形も変化に富み、ヨーロッパ有数の渓谷といわれるサマリア渓谷や2.000m級の山、数百ある洞穴など内陸部にも見どころが多い。

クレタ島の食事

クレタのタベルナでは、島で作られてぃるクレタ・チーズや蜂蜜入りヨーグルトが味わえる。海辺のタベルナではどの店も新鮮な魚料理を出してくれるので、魚好きの日本人としてはとてもありがたい。

6:00 イクラリオン入港

船内で朝食

7:00 クノソス宮殿へ向かう

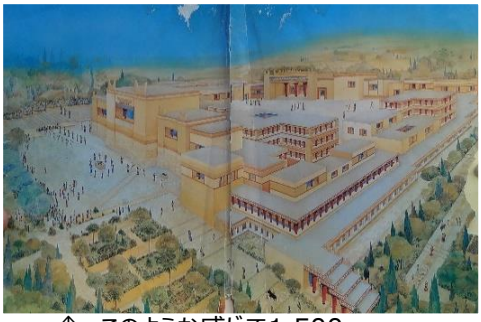
港の隣に城塞跡がある。今回のツアーでは、しばしば「ヨーロッパ(キリスト教)」vs.「トルコ(イスラム教)」の対立跡の場面に接していたような気がする。この城塞も、ベネチア時代(15世紀)にオスマントルコ帝国の侵攻からを防ぐためのもの。

クノソスの迷宮

遺跡の外観。中央の木は、クレタ島特産のオリーブ。手前の荒れ地に見える部分も未整備の宮殿跡

復元途中の遺跡。出入り口の周りや横梁は元来木造だが、復元はコンクリートである。柱の彩色も復元途中である。

← 壁画(部分修復)



↑ このような感じで1,500以上の部屋があったと言われている。

↑ 未修復の壁

クノソス王の玉座の間　右端にあるのが玉座である↓

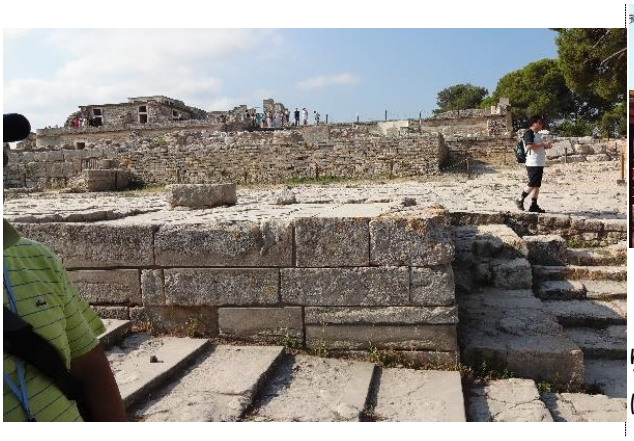
こちらの絵は、タコの右半分。地中海の住民は、タコを食べる。残念ながら本物そっくりのレプリカ

見事な復元壁画

古代クレタ島は、海洋国家

最も有名な雄牛の壁画

拡大



見事なハイビスカス。

歴史的に貴重な遺跡ではあるが、復元の途中ということもありあまり高く評価されていない。復元が完成したらもう一度見に来たいものである。

11:20クレタ島出発

いつものように静かにイクラリオンの港から出航していた。この左側にはクレタの国際空港があり、かなり頻繁に旅客機が離着陸しているのが見られた。

16:00 サントリーニ島到着

サントリーニ島について(旅行社のパンフレットより)

キクラデス諸島の南端、正式にはティラ*島という火山島。有史以前から何度も繰り返された噴火によって、現在の三日月形の島になった。一夜にして海底に没したという伝説から、アトランティス大陸と関わりがあると言われている。なお、カルデラ(外輪山)の直径は約25kmで、ほぼ箱根のそれと同じくらい。

島の中心地であるフィラは、高さ300mほどの赤茶けた断崖の上にある。ケーブルカーかロバの助けを借りて急な石畳の坂道を上ると、南北に細長く伸びた町が現れる。考古学博物館では、古代ティラの遺跡から発見された彫刻や陶器を展示しているが、特に壺のコレクションが有名(いくつかは、翌日アテネの国立博物館で見ることができた)。

イアはフィラから北に10kmほどのところにあり眺望の素暗らしさが有名で、フィラに比べてのんびりとした雰囲気が標っている(実際は観光客であふれ返り、歩くだけでも大変だったが…)。

逆にフィラから南西に約10km進んだ場所にミノア文明の都市遺跡であるアクロティリがあり、現在も発掘調査が続いており、舗装された道路や広場、2階建て家屋などが発見されている。

＊日本ではしばしば「テラ」と発音される。古代ギリシャ語で「大地」「地球」の意

サントリーニ島の食事：サントリーニ島産のワイン、ビサントは、口当たりが良く飲みやすい。ここの特産のそら豆の料理も美味。フィラのタベルナは、オールドポートに面したイパパンティス通りやアギウ・ミナ通りに集中している。

16:30サントリーニ島に到着

島の上に白く見えているのは、フィアの街。

テンダーボートでオールドポートへ上陸

→ オールドポートからイアへバスで移動

このバスだが、燃料漏れでもしているのか無闇に軽油臭い。おまけにガイドが島の解説をしてくれるのは良いのだが、イアまでの30分間ひたすら英語で語り続けるのだ(乗客の大部分は、日本人)。まあそれでも、約8000年前に火山の大爆発で島の大部分が海に沈んだこと、島の産業としては漁業が主だったが、現在は観光業に頼っていること。島の土壌は、火山灰とサンゴ礁由来の石灰質のため土地がやせていて、栽培できるのはナッツ類ぐらいであること。火山が爆発する前は、このあたりの島で最も栄えており古代文明が発達していたこと。島で最大の街はフィラであるが、夏場のこのシーズンには島の人口が数倍になることもあることなどを説明しているのが分かった。

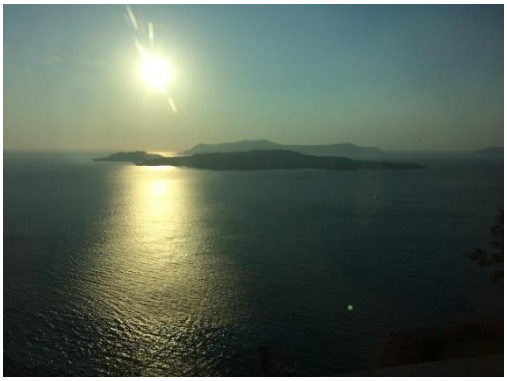
←イアに行く途中の風景。手前の畑ではナッツ類(たぶんピスタチオ)を栽培中？

イア

バスの駐車場からイアの街へ向かう人々
夏の日曜日ということでヨーロッパ中から人が集まったようである。

イアの中心にある教会
3段の鐘が特徴である

イアの有名な風景
海とドームの「青」と壁の「白」が対照的



火山島に日が沈む

イアから見えるフィラの街

21:00 サントリーニ島出発 船旅最後の夜

←夜のエーゲ海
(本当はもっとマッ暗)

船内の案内板→
現在位置がすぐわかる